信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**マレーシア、サラワク州での農山村調査法実践演習プログラム**		
学部・研究科名	全学教育機構		
実施期間	平成27年3月1日～27年3月9日		
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア、サラワク州		
参加学生数　：　10名		知の森基金からの支援者　：　10名	
プログラム概要	本プログラムは、平成26年度後期に共通教育（教養科目）において開講した「環境マインドを現場で体験するゼミ（熱帯雨林）」において実施した。海外活動先はマレーシア、サラワク州である。現地の2つの村において、住民のニーズや課題を探る参加型農山村調査法（PRA）という手法を演習した。なお、本プログラムでは、引率教員と日本人助手（国際環境NGOスタッフ）が全日程学生と同行し、現地では現地人の助手に補助を依頼した。		

実施状況・成果

1. 3月2日に国際環境NGO（FoE）マルディ支部を訪問し、同地の農林業プロジェクトを視察し、代表のジョク・ジャウ氏とディスカッションを行った。

2. 3月3-4日には、農耕民を中心とするロング・ブディアン村を訪問し、PRAを実施、グループ演習（聞きとり、ディスカッション、プレゼンテーション）を行った。

3. 3月5-6日には、狩猟採集民を中心とするロング・ウィン村に滞在し、PRAを実施、グループ演習（聞きとり、ディスカッション、プレゼンテーション）を行った。

4. 現地での移動には四輪駆動車やボートを利用したが、道中で木材運搬やアブラヤシ・プランテーション開発の様子を観察、記録しながら、貿易を通じた自分たちの暮らしとのかかわりや課題を議論した。

5. 事前教育として平成26年度後期の土曜日を中心に計6回集まって、PRAの訓練のほか、現地語や現地事情の学習などを行った。

6. 参加学生は現地でまとめたプレゼンテーション資料に加え、帰国後に演習レポートを作成した。調査助手として同行したNGOスタッフや引率教員のコメントを収めた報告集（冊子）として発行した。

現地で、学生たちは全員、現地NGOや村長、村人などと積極的にコミュニケーションをはかっていた。異文化コミュニケーション、社会人基礎力、環境マインドの醸成といった教育的な効果は顕著であると感じた。なお、本プログラムの成果について、信大が今秋発行する『環境報告書2015』の記事として掲載が予定されている。

学生の声①-理学部　学生

このゼミは、「環境マインドを現場で体験するゼミ」という名前がついているが、実際に行ってみないとわからない。プランテーションのスケールの大きさ、運搬されていた大量の木材、熱帯雨林という大自然の中にいる心地よさ、インタビューをしていてわかる村人の表情の変化・口調の強さ・言葉の壁、人々の優しさ・心の豊さ…。
現場で環境に対する心、意識を感じ、私たちの中のそれらを向上させていくきっかけになったと思う。1週間ではまだ言葉で表せないほど、いろいろなことを感じて、本当に濃い9日間だった。一生忘れられない経験・思い出になった。行けて本当に良かった。また行きたい。そして、もっと多くのことを感じて、心の豊かな人になりたい。そして、もっと人として成長していけたらと思う。

学生の声②-農学部　学生

環境問題とは複雑である。ただ「守りたい」、「壊しちゃいけない」では片づけられないのである。その様な難しいことをこの旅では幾度となく考えてさせられた。そのような時、村の人々が温かい笑顔で迎えて、おいしい料理で和ませてくれ、ダンスに幾度となく誘ってくれた。頭で難しいことを考えてパンクしそうになっても、サラワクの人々に幸せなひとときに招き入れてもらえた。だからこそ、その人々の幸せというものを考える。今回のゼミで、マレーシアのサラワク州という場所に行き、実際に行かなければ分からなかった現実を見て感じた。このことを、これからの自分の将来の方向性を決めていく際に大事にしていきたい。改めて、自分の専攻を研究し、日本の中で日本産の資源を使いマレーシア等の他国の環境に影響を及ぼさないよう努めるという構想を深めていきたいと思う。

村人に話を聞く（PRA演習）

森の資源利用を観察する